



飛鳥時代以来、日本では連綿と仏像が造立されてきましたが、なかでも江戸時代には全国各地で膨大な数がつくられました。そうした江戸時代の造仏界をリードしたのが、七条仏師をはじめとする京都仏師です。今回の特集展示では、「大仏師系図」にもその名が記され、江戸時代から平成まで15代にわたって系譜を連ねた京都仏師・畑治良右衛門が伝えてきた雛型の数々を展観します。

## 雛型とは

雛型は建築でいえば設計図面にあたる存在で、主に下記の3つの役割が考えられます。

### ①大きな仏像を効率的に制作するための雛型

彫像を実際に彫り始める前の重要な工程のひとつが、木組(構法)の決定です。木組が決まれば、必要な木材の数量や形も決まります。大量に彫像を制作するためにも、無駄なく効率よく制作する必要がありました。

### ②注文主である施主や発願者にみせる完成予想図としての雛型

注文主の要望を正確に、そして具体的に把握するためにも雛型はおおいに役立ったでしょう。また彫像は多くの場合、工房において複数人で分担制作されます。雛型があれば、完成イメージを共有することができます。

### ③像をどのように制作したかを記録する手控えとしての雛型

完成した彫像は注文主のもとに納品されるため、仏師の手元を離れてしまいます。かつて受注した像に類似する仕事を請負った場合、雛型があれば①の工程を省くことが出来ます。また、雛型という手控えがあることで、過去の業績を証明できるので、新規の仕事を得る上でも役立ったのでしょう。

上記の他、名品を写すスケッチとしての役割を担った雛型や、習作も想定されます。小さな雛型ではありますが、彫像を制作する仏師やその工房にとっては、まさに財産に値すると言っても過言ではありません。

## 10 十二神将立像 / 江戸時代

本雛型群のなかには、「～の写し」と記されたものがいくつか存在します。自らの工房において制作したことの証として、あるいは手控えとして造ったのでしょう。本品は滋賀・延暦寺根本中堂安置の十二神将立像(根本中堂の再建期である1642年頃の造像とされる)のうちの1軀の雛型に該当する可能性があります。

## 18 日光権現坐像 / 江戸時代 元禄11年(1698)

本品は、27代康傳の事績として「大仏師系図」に記される、東京上野の寛永寺山王社へ納められた「日光権現御神体」の雛型にあたると思われます。現在、西郷隆盛像が立つあたりにあったとされる山王社は、慶応4年(1868)の上野戦争で灰燼に帰しました。本品は失われた完成品の姿をしのぶ貴重な遺品といえます。

## 21 慈眼大師坐像 / 江戸時代 承応3年(1654)

東京上野の寛永寺を創建した慈眼大師天海(1536～1643)の坐像。天海像としては、寛永17年(1640)に康音が造ったものが著名です。本品の銘文には「寛永寺」や「毘(沙)門」という文字も見られ、天海が再興に力を注ぎ、寛永寺2世となった公海(1608～1695)が再建した京都・毘沙門堂との関連が想像されます。

22 慈恵大師坐像じえだいしざぞう／江戸時代 宝永4年(1707)

比叡山中興の祖とされ、元三大師の名で親しまれる慈恵大師良源(912～985)の坐像。比叡山延暦寺では、元禄16年(1703)より根本中堂の修理が行われました。その際に仏像の修理を担当した28代康傳によってつくられた雛型です。銘文からは、東塔に安置されていた良源像を写したものと解釈できます。

## 実作品と雛型

24 花園法皇坐像はなぞのほうおうざぞう／江戸時代 明暦4年(1658)



京都・妙心寺玉鳳院に安置される花園法皇坐像(像高 82.4 cm)の雛型。妙心寺像は頭部内銘文および「大仏師系図」により、明暦4年3月に康知(?～1661)によって制作されたことが分かります。雛型底部の銘文には、妙心寺像が造られる1ヶ月前の日付が記されています。江戸時代肖像彫刻の傑作のひとつとして名高い像の雛型が、今回はじめて確認されました。

25 上林竹庵坐像かんばやしちくあんざぞう／江戸時代



京都宇治の上林記念館が所蔵する上林政重(号:竹庵、1550～1600)の肖像彫刻の雛型。かつては京都・平等院に安置されていました。元禄12年(1699)の竹庵の百回忌に際して、平等院に建てられた墓碑とともに安置されたと伝えられていますが、雛型に記された康知(?～1661)が作者であるならば、制作年代は50年ほどさかのぼることになります。

26 四条天皇坐像しじょうてんのうざぞう／江戸時代 寛文7年(1667)



京都・泉涌寺霊明殿に安置される四条天皇坐像(像高 78.0 cm)の雛型。寛文年間(1661～73)は泉涌寺の再興期にあたり、「泉涌寺再興日次記」や「大仏師系図」によると、泉涌寺像は寛文6年に康乗(?～1689)が造像を始めたといえます。雛型と完成品は衣文の皺などが近似しており、本品は実際に近くで造像に携わった人でなければ造れません。なお、畑治良右衛門雛型群のなかには本品以外にも、後光厳天皇坐像・後円融天皇坐像や、いまは伽藍神と呼ばれている神像のうち加茂明神倚像といった泉涌寺に現存する彫像の雛型があります。

27 毘沙門天・持国天立像頭部びしゃもんでん じこくてんりゅうぞう とうぶ／江戸時代 寛政元年(1789)



京都・頂妙寺二天堂に安置される二天王立像の頭部雛型。頂妙寺像はともに2メートルを超える大きさで、頭部は正中2年(1325)の作ですが、体部は寛政元年に康傳・康朝・駒井友之進・昭康らによって補作されました。本品は、江戸時代に体部を補作する際に造られた雛型の頭部のみが残ったものでしょう。頂妙寺の二天像の均整がとれた姿から、七条仏師が主導したとみられますが、雛型に記された康朝の名前から、そのように推測されます。

## 仏師と雛型

### 畑治良右衛門

江戸時代初期から平成にいたるまで、15代続いた京都の仏師。康朝(1759～1818)の弟子として「大仏師系図」に名前がみえます。畑家系図(原本の現所在不明)によると、6代目(?～1804)が康朝に弟子入りしたとされます。また山形・龍泉寺十六羅漢像のうち阿氏多尊者(文化14年[1817])の台座底板裏に康朝と「弟子／畑次郎右衛門」の名が併記されており、11代(?～1871)も康朝に師事していたことが分かります。



No.30 弘法大師坐像

奈良・定願寺像の銘文にある「西六条御堂筋西洞院東入町住人」などの記述から、かつては当館の近くに居を構えていたことも分かります。また青森・長福寺像の銘文「本家大仏師分家」や、本雛型群のなかに七条仏師の名が記されたものが多数含まれることから、畑治良右衛門が七条仏師にきわめて近い存在であったと想定できます。

### 33 毘沙門天像 頭部／江戸時代



康傳作の毘沙門天像の頭部です(27・28・30代のいずれの康傳かは不明)。本品には、康傳の花押(署名のかわりに書く記号)が書かれている点が貴重です。なお、愛知県・清涼寺釈迦如来立像の銘文には「大仏師／畑治 左 門／康傳／京都西六条」とあり、畑治良右衛門が康朝だけでなく他の七条仏師とも制作を行っていたことがわかります。

### 34 弘法大師坐像 頭部／江戸時代 享保20年(1729)

弘法大師像としては、運慶の4男である康勝が造った京都・東寺御影堂に安置されている像(天福元年[1233])が著名です。七条仏師は、鎌倉時代から17世紀末まで東寺大仏師職(東寺の修造を担う組織の責任者)を歴任しました。本品は、七条仏師にとって重要な事績の1つである御影堂像を康傳が写したものである可能性があります。

### 36 徳川家光坐像／江戸時代



康知(?～1661)は、徳川家光(1604～51)の遺像を慶安5年(1652)に制作し、栃木・輪王寺に納めました。本品は、この輪王寺像の雛型と考えられます。しかし、若々しい相貌をみせる輪王寺像とは違い、本品は亡くなった47歳という年齢に相応の面貌表現がなされている点が異なります。

## 僧形像と雛型

畑治良右衛門雛型群の約4分の1を占めるのが、僧形の胸像と頭部です。僧侶の肖像を制作する場合、体部には大きな違いがなく、個性があらわれるのは面相部です。そのため、すべての肖像で体部の雛型を制作する必要はなく、転用すれば事が足ります。胸像や頭部のみの僧形像が多いのには、そのような事情があるのでしょう。

とうけいほせんきょうぞう

### 45 桃溪甫仙 胸像／江戸時代 享保12年(1727)




兵庫県豊岡市に位置する弥勒寺の開山・桃溪甫仙の胸像。28代康傳(生没年不詳)が制作した像(同寺に現存)の雛型に該当すると思われます。小さな雛型でありながら、堅実な人柄を連想させる迫真的な表現が目を引きます。

いんげんりゅう ききょうぞう

### 53 隠元隆琦 胸像／江戸時代

銘文によると、本品は京都・萬福寺松隠堂にある隠元隆琦像を写したものです。この銘文の内容から想起されるのは、同寺開山堂に安置される隠元隆琦倚像(寛文3年[1663]、范道生作)です。康傳は雛型を造ることで、隠元像など萬福寺に安置された仏像にみる中国・明の彫刻様式を学んだのかもしれませんが。

## 【 出品リスト 】

出品番号	名称	員数	法量 (cm)	時代	材質	銘文翻刻
<b>雛型 (ひながた) とは</b>						
1	金剛力士立像	2 軀	阿：像高17.8 咩：像高17.7	江戸時代	木造	
2	菩薩形坐像	1 軀	像高23.2	現代	木造	
3	十二神将立像	1 軀	像高16.6	江戸時代	木造	背面「十二神」
4	阿弥陀如来坐像	1 軀	長13.3	江戸時代	木造	像底「三十四代左京／法橋康敬作」 「イ印／室町／大仏師／作之」
5	如来坐像	1 軀	像高14.0	江戸時代	木造	
6	清凉寺式釈迦如来坐像	1 軀	像高9.0	江戸時代	木造	像底「頂上迄貳尺九寸〇／頂上迄貳尺九寸七分／首除 貳尺六寸」
7	菩薩坐像	1 軀	像高9.7	江戸時代	木造	
8	菩薩立像	1 軀	像高14.3	江戸時代	木造	
9	観音菩薩立像	1 軀	像高7.8	江戸時代 宝暦6年 (1756)	木造	背面「観音 宝暦六子十一月十九日 康音弟子／石河 専右衛門〇」
10	十二神将立像	1 軀	像高16.1	江戸時代	木造	背面「毘叡山／中堂十二神／之内うつし／康知」
11	十二神将立像のうち 未・戌・寅・酉・午・申	6 軀	像高 未：14.9 戌：14.4 寅：14.6 酉：14.7 午：15.1	江戸時代	木造	311 背面「午／珊瑚羅」 312 背面「さる／アンティラ／安底羅大将／  〇廿九」
12	神将形立像	1 軀	像高17.2	江戸時代	木造	邪鬼底部「釈〇〇〇〇／〇〇〇〇〇〇／〇〇うでくび を〇〇〇」
13	神将形立像	1 軀	像高11.6	江戸時代	木造	
14	神将形立像	1 軀	像高9.8	江戸時代	木造	
15	天部形立像 体部	1 軀	長14.2	江戸時代	木造	
16	阿修羅像 頭部	1 個	長10.7	江戸時代	木造	背面「観音亦八部衆／中ノ阿修羅王也／寛政六〔寅〕 年／友学康道造」 ※底部にも銘文の痕跡あり。
17	東照大権現坐像	1 軀	像高12.2	江戸時代	木造 彩色 玉眼	像底「東照大権現／像／  〔申〕年／  〇〇〇〇 ／ 作 / ち印」
18	日光権現坐像	1 軀	像高 (坐高) 5.5	江戸時代 元禄11年 (1698)	木造	像底「日光ごん現〔大佛師〕康傳／康忠／東叡山山王 社へ納ル／元禄十一年八月廿四日」
19	文敬院像 頭部	1 個	長30.3	江戸時代	木造 彩色	底部「文敬院」 背面「法〇京」
20	日蓮上人胸像	1 個	長10.4	江戸時代 享保10年 (1725)	木造	首柄側面～背面「享保十年／巳九月日／日蓮大師／廿 八世／法橋康傳／作之」 首柄正面「五寸」
21	慈眼大師坐像	1 軀	像高9.8	江戸時代 承応3年 (1654)	木造	像底「慈眼大師御影本形／東叡山 毘門〇様〇／〇〇 〇〇〇〇作也／承應三年／二月十五日」
22	慈恵大師坐像	1 軀	像高5.4	江戸時代 宝永4年 (1707)	木造	正面「山門中堂／慈恵大師写／宝永四年／亥十月十八 日／山門ニテ康傳作之」 右側面「東塔作」
23	如来立像	1 軀	像高32.8	江戸時代	木造	

出品番号	名称	員数	法量 (cm)	時代	材質	銘文翻刻
<b>実作品と雛型</b>						
24	花園法王坐像	1 軀	像高8.3	江戸時代 明暦4年 (1658)	木造	像底「右御手ひあふぎ／左御手念珠／妙心寺花園法皇様／御影木形／明暦四年戌ノ二月／大佛師法眼康知」
25	上林竹庵坐像	1 軀	像高8.4	江戸時代	木造	像底「宇治茶師／上林竹庵御願木形／大佛師／法眼康知」
26	四条天皇坐像	1 軀	像高8.8	江戸時代 寛文7年 (1667)	木造	像底「泉涌寺御影堂／四條院宸影自／太上天皇御造立／傳奏 勤修寺經廣卿／大佛師〔某〕奉彫刻者也／于時寛文七〔丁未〕七月日／大佛師二十五代住康乘／記之」
27	毘沙門天・持国天立像 頭部	2 個	毘沙門(阿)長13.7 持国天(叶)長15.3	江戸時代 寛政元年 (1789)	木造	阿：首側面～背面「二條新地／頂妙寺二天王／毘沙門天／御面相写／髮筋不切／卅一代／康朝作／寛政元〔酉〕年／二天調進之時」 叶：首側面～背面「二條新地／頂妙寺二天王／持国天御面写／但モヘガミ立ッ／髮筋なし／卅一代／康朝作／寛政元酉年／二天調進時」 地髪背面「此御首／したへ長クシテ／鬘ぬめしり／ミシカク残事」
<b>仏師と雛型</b>						
28	誹諧職人尽 後集 (豊夢和編)	2冊の うち1冊	縦22.0 横15.7	江戸時代 寛延2年 (1749) 刊	紙本墨摺	
29	北斎漫画 第4冊 (葛飾戴斗画)	4冊の うち1冊	縦22.5 横15.5	江戸時代 文化12年 (1815) 刊	紙本墨摺着色	
30	弘法大師坐像	1 軀	像高8.8	江戸時代 文化14年 (1817)	木造	像底「文化十四年丑口／佛師／畑治郎右衛門口／弘法大師」
31	孔子倚像	1 軀	像高7.4	江戸時代 天明4年 (1784)	木造 彩色金泥 彫眼	裾裏「孔子像／探幽画写／一／天明四〔辰〕／年初秋／三十世康傳男／法橋大貳／康朝作」 木箱：蓋表「探幽画写／孔子像」 蓋裏「天明四辰年初秋／三十世康傳男／法橋大貳／康朝作〔印〕」
32	清凉寺式釈迦如来胸像	1 軀	長17.0	江戸時代 文化4年 (1807)	木造	右肩矧面「文化四〔卯〕／三月／三十一世左京康朝作／清凉寺二而」 左肩矧面「口 立像／壺尺六寸」
33	毘沙門天像 頭部	1 個	長5.9	江戸時代	木造	背面「法口堂／毘沙門頭／康傳〔花押〕」
34	弘法大師坐像 頭部	1 個	長9.9	江戸時代 享保20年 (1735)	木造	背面「享保廿年〔卯〕／法眼康傳作之／東寺弘法大師／御面写改」 底部「東寺大師之／寸法／坐像式尺五寸／膝惣幅三尺三寸五分／入 式尺三寸口口」
35	僧形坐像	1 軀	像高6.7	江戸時代 享保14年 (1729)	木造	裾裏「腰掛式尺口／享保十四年／酉口口口日／大佛工作／七條康傳口」
36	徳川家光坐像	1 軀	像高7.9	江戸時代	木造	像底「太政大臣源家光公／御影之本形／大佛師法眼康知／奉彫刻者也」
<b>僧形像と雛型</b>						
37	僧形坐像	1 軀	像高7.0	江戸時代	木造	
38	親鸞聖人坐像	1 軀	像高8.9	江戸時代 正徳5年 (1715)	木造	像底「高田ノ写／親鸞之像／壺尺三寸也／正徳五〔乙未〕八月廿二日／口八代康傳」
39	僧形坐像	1 軀	像高(坐高) 8.7	天和2年 (1682)	木造	像底「坐像壺尺三寸也／毛衣ニ五分一世 天口衆像／わけさ目らんしき口口て衣也／天和貳年〔いぬ〕九月十八日／調進候也／十七才ニ而作」 背面「内近作」
40	僧形胸像	1 軀	長10.2	江戸時代	木造	右肩矧面「相国寺／卅世」 背面「武州」 左肩矧面「壺尺四寸の／かしら」
41	僧形胸像	1 軀	長10.2	江戸時代 安永4年 (1775)	木造	背面「甲州郡内領／谷村寶永寺／開山ノ御面相／安永四未年四月／調進」 右肩矧面「△印」 左肩矧面「○」

出品番号	名称	員数	法量 (cm)	時代	材質	銘文翻刻
42	僧形胸像	1 軀	長8.8	江戸時代	木造	背面「上州／浄蓮寺様」
43	俊透和尚胸像	1 軀	長9.2	江戸時代	木造	背面「俊透／和尚」
44	僧形胸像	1 軀	長7.6	江戸時代	木造	背面「古口郡」
45	桃溪甫仙胸像	1 軀	長9.6	江戸時代 享保12年 (1727)	木造	右肩矧面「但馬／弥勒寺開山」 背面「甫仙／七十歳／享保十二〔丁未〕／四月二日」
46	僧形胸像	1 軀	長9.2	江戸時代	木造	
47	僧形像 頭部	1 個	長14.3	江戸時代	木造	背面～側面「南勝寺／國師様／大仏師□□／法橋康音」
48	無宗和尚胸像	1 軀	長7.8	江戸時代 元文4年 (1739)	木造	背面「志州／吞湖院／二代／無宗大和尚／元文四未三月下／法眼康傳」
49	僧形胸像	1 軀	長9.7	江戸時代	木造	
50	為林和尚像 頭部	1 個	長9.1	江戸時代 萬延元年 (1860)	木造	側面～背面「永建寺／為林和尚／于時萬延元年／三十五世／法橋康教／作之」
51	けい福寺和尚胸像	1 軀	長8.3	江戸時代	木造	背面「丹波／六ノセ／けい福寺／□□善泰□」
52	けい法寺和尚胸像	1 軀	長9.5	江戸時代	木造	背面「丹波／善たい／けい法寺／和尚」
53	隠元隆琦胸像	1 軀	長8.2	江戸時代	木造	背面「黄檗山／開山／隠元国師」 底部「松隠堂ノ写／康傳写之」
54	僧形胸像	1 軀	長8.2	江戸時代	木造	背面「五十一才／□」
55	僧形胸像	1 軀	長7.5	江戸時代	木造	背面「高田山」
56	円戒国師胸像	1 軀	長7.0	江戸時代	木造	背面「明應四〔乙卯〕／二月晦日入滅／五十三歳」 右肩矧面「伊賀州／西蓮寺写」 左肩矧面「円戒國師像」
57	僧形胸像	1 軀	長6.8	江戸時代	木造	
58	僧形胸像	1 軀	長7.4	江戸時代	木造	背面「豊州口定／廿七世」
59	僧形胸像	1 軀	長6.7	江戸時代	木造	
60	僧形胸像	1 軀	長7.4	江戸時代	木造	
61	僧形胸像	1 軀	長5.8	江戸時代	木造	
62	僧形胸像	1 軀	長5.0	江戸時代	木造	背面「大佛」

- ・本資料は、龍谷大学龍谷ミュージアムで開催される特集展示「仏像ひな型の世界」(2020年1月9日～3月22日)の解説および出品リストである。
- ・作品番号は陳列番号と一致するが、陳列順とは必ずしも一致しない。
- ・出品作品のうち、銘文の翻刻については原則として旧字体を用いた。また「／」は改行を、[]内は割註をあらわす。
- ・作品No.28・29のみ龍谷大学の所蔵である。
- ・「畑治良右衛門」の表記については、「畑治郎右衛門」などいくつか存在するが、本展覧会においては「畑治良右衛門」に統一した。
- ・作品解説は丹村祥子(龍谷ミュージアム)が執筆した。銘文の翻刻は大森佳恵(龍谷ミュージアム)、吉竹智加(立命館大学)が担当し、丹村祥子が監修した。
- ・本展の開催にあたり下記の方々からご協力ならびにご教示を得た。(五十音順。敬称略)  
上林記念館 泉涌寺 頂妙寺 妙心寺  
西谷功 吉水快聞